

左側大腸穿孔治療のため人工肛門造設の手術を受けられた患者さんへ

福岡東医療センター 外科では以下の研究を実施しています。

この研究は、過去の診療情報を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」と呼ばれる学術活動です。過去に実施された検査の結果等の診療情報等を利用しますので、患者さんに新たにご負担いただく検査や治療はありません。また、学会で公表する場合も、個人情報の保護には十分配慮し、第三者には誰のものか一切わからないようにします。

患者さんにはご自身の診療情報が使用されることを拒否する権利があります。本研究の対象に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に使用されることを希望されない場合は下記の問い合わせ先にご連絡ください。既に学会発表が行われている場合はデータを削除できない場合がありますのでご了承ください。なお、研究協力を拒否された場合でも、患者さんが診療上で不利益を被ることはありません。

【研究課題名】	左側大腸穿孔に対する人工肛門造設術後の閉鎖率とその関連因子の検討
【研究実施期間】	倫理委員会承認後～2027年3月31日
【研究実施期間・研究責任者】	独立行政法人国立病院機構 福岡東医療センター 外科 研究責任者 由茅 隆文
【対象となる方】	西暦2020年1月1日から2024年12月31日に外科にて左側大腸穿孔に対して手術を受け、人工肛門を造設され、自宅退院または転院された44名
【研究の意義、目的、方法】	腹痛で緊急手術を要する病気の中で、大腸穿孔は重症な疾患の一つです。人工肛門造設を要する手術が必要なことが多く、人工肛門閉鎖できないことも多いことが報告されています。 どのような患者さんが人工肛門を閉鎖しているか、明らかにすることができれば、手術の方法や術前説明などについてより良いものにすることができるとも思われます。 当院における左側大腸穿孔の臨床データを検討し、腸管壊死を予測する因子を同定します。
【利用する情報の種類】	左側大腸穿孔の診療に関する臨床データ（年齢、性別、血液検査、画像検査、病理検査、術後の転帰）
【個人情報の保護】	研究に際して、生年月日、カルテ番号、住所、氏名などの個人が特定できる情報は収集しません。また、研究の結果を公表する際も個人が特定できないよう配慮いたします。

【問い合わせ先】	独立行政法人 国立病院機構 福岡東医療センター 研究責任者： 外科 由茅 隆文 住所：〒811-3195 福岡県古賀市千鳥 1-1-1 電話番号：092-943-2331（代表）
----------	--